

女性の安全・安心と自立を支える 「山梨版ワンストップ伴走支援モデル」の構築に向けた インド・ウッタル・プラデーシュ州視察報告及び政策提言 (概要版)

1 視察の目的

インド・ウッタル・プラデーシュ州における女性の安全確保、自立支援及び女性活躍推進の先進的な取組を調査し、山梨県における女性支援施策の充実に向けた示唆を得ることを目的として、女性起業家との意見交換並びに女性・児童開発局（WCD）、女性・子ども安全組織（WCSO）、Women Power Line1090（女性専用の24時間365日対応ヘルプライン）及びOne Stop Centre（OSC）を視察した。

2 視察で得られた主な知見

(1) 女性の経済的自立の重要性

女性起業家や企業経営者との意見交換を通して、

- 教育機会の確保
- キャリア形成支援
- 働く母親への支援
- 経済的自立 が女性の社会参画の基盤であることを確認した。

女性支援は保護のみで完結するものではなく、就労や所得向上を含めた自立支援までを視野に入れることが重要である。

(2) 女性支援と子ども支援の一体的推進

WCDでは、女性支援と子ども支援を個別施策としてではなく、妊娠期から子どもの成長、自立までを見据えたライフステージ全体の支援として展開していた。

(3) 安全を支える総合政策の推進

Mission Shaktiでは、女性の安全、保護、自立、就業、教育及び社会参画を一体的に推進していた。

女性の安全を単なる福祉施策ではなく、社会参加を支える基盤として位置付けていたことが特徴であった。

(4) 相談から自立まで切れ目のない支援

Women Power Line1090では、

- 24 時間 365 日対応
- 匿名相談
- 継続的なケース管理
- 関係機関との連携を実施していた。

また、One Stop Centre では、

- 医療支援
- 心理支援
- 法律支援
- 一時保護
- 自立支援

をワンストップで提供しており、相談から生活再建までを切れ目なく支援する体制が構築されていた。

3 視察全体から得られた示唆

今回の視察を通じて最も重要な示唆は、

「安全」→「保護」→「生活再建」→「経済的自立」→「社会参画」
までを一体的に支援する仕組みの重要性である。

山梨県には既に多様な支援制度が整備されている一方で、

- 支援の入口が分かりにくい
- 制度ごとに支援が分散している
- 自立まで伴走する機能が十分でない という課題がある。

今後は既存の支援資源を有機的に結び付け、相談から自立までを切れ目なく支援する仕組みの構築が求められる。

4 政策提言の基本理念

「困難を抱える女性に、安全と安心、そして希望を」

女性の安全と安心は、自立と社会参画の前提条件である。

DV 被害、性暴力被害、生活困窮、孤独・孤立などの困難を抱える女性を中心に据え、必要に応じて子どもや家族への支援を一体的に実施する。

また、女性支援を福祉施策にとどめることなく、人材育成、雇用、子育て、教育、地域づくりを含む総合政策として推進する。

5 6 つの政策提言

提言 1 やまなしワンストップ窓口の構築

電話、SNS、Web、対面相談を統合した女性総合相談窓口を整備し、相談の入口を一本化する。

提言 2 女性支援コーディネーターの配置

支援対象者ごとにアセスメント、支援計画作成、関係機関調整及び伴走支援を担うコーディネーターを配置する。

提言 3 女性支援プラットフォームの構築

行政、医療、福祉、教育、警察、司法、民間団体等が連携する包括的支援ネットワークを構築する。

提言 4 自立支援パッケージの整備

住まい支援、就労支援、心理支援、法律相談 を組み合わせ、相談から自立まで切れ目なく支援する。

提言 5 Safe City の視点によるまちづくり

通学路対策、防犯カメラ、夜間照明、緊急通報システム等を推進し、女性の安全をまちづくり政策として位置付ける。

提言 6 相談員支援体制の強化

スーパーバイザー機能を充実させ、相談員の専門性向上とメンタルケアを図る。

6 目指すべき姿

山梨県が目指すべき姿は、

「どこへ相談すればよいかわからない社会」から

「困ったらまずここへ相談すればよいと言える社会」への転換である。

さらに、

「相談を受ける行政」から「自立まで寄り添う行政」への転換を図り、

既存の支援資源を有機的につなぐ「山梨版ワンストップ伴走支援モデル」の構築を目指す。

山梨県には既に多様な支援資源が整備されている。

今後求められるのは、新たな制度をつくることではなく、既存の支援資源を有機的につなぎ、相談から保護、生活再建、経済的自立までを切れ目なく支援する仕組みの構築である。

本提言は、その実現に向けた「山梨版ワンストップ伴走支援モデル」の構築を提案するものである。女性の安全と安心を守り、一人ひとりが希望を持って自立し、活躍できる社会の実現を目指す。

キャッチフレーズ

「女性の安全・安心はゴールではない。自立へのスタートである。」